

花みずき

令和7年度
発行
やかげ女性連絡協議会
題字：山岡治喜平矢掛町長

音読のすすめ

やかげ女性連絡協議会
運営委員長 岡本 緑

音読というと、小学生がすることのように感じられる方がおられるかもしれませんが、そんなことはありません。

『音読は、自ら声を出す能動的行為に加え、文・文節を目で追いつながり、音として耳で聞くこと、黙読よりも書かれた内容をより理解しやすくなる。さらに、考えることに繋がる。つまり、脳内の記憶・思考判断をつかさどる前頭野が活性化される。そのことにより、日本語力が向上し、新しい語彙を自分のものとして獲得できる手段となりうる音読はそれ自体大きな意味がある』と、音読の力を前向きに捉え、実践しています。

毎朝届く新聞を広げ、見出しを眺めます。気になった記事を見つけると、ジャンルにとらわれず音読します。毎日違う文章を読むことで、その都度

頭を働かせることになり、身体機能の維持向上のためにも続けていこうと思っています。

声を出す機会が減っているな、口元が緩んで滑舌が悪くなっているなど思われる方、新聞を音読してみませんか。



令和7年度 運営委員

- | | |
|-------------|-------|
| 矢掛公民館生活部 | 河上 晴美 |
| 矢掛公民館生活部 | 灰原 和子 |
| 三谷公民館生活部 | 田中 昌子 |
| 山田公民館生活部 | 小川 成美 |
| 山田公民館生活部 | 渡辺 豊子 |
| 小田公民館生活部 | 武田三枝子 |
| やかげ要約筆記サークル | 岡本 緑 |
| やかげ要約筆記サークル | 田中 美子 |
| 山田地区 | 池田 輝美 |
| 矢掛地区 | 武井 玉美 |
| 三谷地区 | 平山 美加 |

令和7年度 事業・活動

- | | |
|-----------|-----------------|
| 5月15日 | 総会・講演会 |
| 10月30日 | 男女共同参画推進セミナー |
| 11月29日 | 第14回やかげ女性交流会 |
| 2月2日 | 役員研修「こと道学習会」 |
| 2月7日 | 町長さんを迎んでさわやかトーク |
| 4月10日 | 機関紙「花みずき」第27号発行 |
| 6・9・12・3月 | 議会一般質問傍聴 |
| 年間 | 役員会 8回 |
| | 運営委員会 8回 |

総会講演会 「難聴と要約筆記」

講師 矢掛要約筆記サークル
代表 岡本 緑



みなさんは難聴という、どんなイメージをもっていますか。実は難聴とは音が聞き取りづら

い状態をいいます。人は難聴に気づきにくく、気づかないうちに難聴になっていくかもしれません。実際に難聴になつて音が聞き取りづらくなつた場合、日常生活で困ることはたくさんあります。複数人での会話、テレビでの聞き取り、会計時のコミュ

ニケーション等々、色々な場面で起こります。そういった場合、コミュニケーションをとるために手話があります。しかし手話を全く知らない人からすると、ジェスチャーのよつなものだと思われがちですが、手話ははっきりとした言語なので、そのための文法などがあり困難です。

話された内容をその場で文字にして伝える方法を要約筆記といいます。今日の講演会では、講師の話された内容が、スクリーンに大きくなりやすい文字で、はっきりと写し出され短時間で素早く理解することができました。要約筆記は話す速さと文字化できるスピードの差から、すべての言葉を文字化することはできません。そこで、話の内容が正しく伝わるように、要約をまとめて文字にするので、難聴者には欠かせない方法です。

議会傍聴

5月30日、議会一般質問を傍聴しました。一問一答方式で聞きやすく、わかりやすい流れでした。病院への質問では、病院関係者が、町への質問では、町長・副町長・教育長・各課長など、その問題を担当する長が答弁していました。現在こんな問題があり、それがどのような方向に進んでいるのか、いち早く知ること

議会の傍聴は、住民にとって町政への関心を高め、理解を深める貴重な機会となっています。町を動かすことの大変さや、予算、地域課題など身近な問題が、どのように議論されているかが分かり、行政への興味をもつきっかけとなります。

男女共同参画推進セミナー

思いを言葉にのせて

講師 矢掛町議会議員 福田京子さん

福田さんは活発な少女で、「おてんば」と言われていたそうです。思ったことは口に出し、友達も多く、明るく活発な女性に成長されました。

教員として活躍され、結婚を機に大阪で生活されました。退職されて「矢掛町」へ移住され、現在は、女性でただ一人の町

議会議員として活躍されています。

「男だから女だからではなく、個人として尊重し合える社会、矢掛町でありたい」と思いました。ジェンダーチェックやジェンダー川柳クイズに挑戦し、有意義で楽しいひとときとなりました。(田中美子)

やかげ女性交流会



第14回を迎えた「やかげ女性交流会」に、今年も9団体の出演者と参加者が昨年よりも増えたことで、予備の椅子を急遽準備しました。多くの方に最後まで観ていただきました。出演者の皆さんは、楽しみながら自分の趣味など舞台発表され、生き生きとした姿は、元気の秘訣だと思えました。趣味や興味のあることは、年齢を重ねても続

女性連の一員として

やかげ女性連絡協議会は、団体やグループ活動の枠を超え、経験と知識を活かしながら、相互の交流や情報共有を図ることを目的としています。会員の学習意欲や向上心を高め、男女が共に生き生きと暮らせる社会の実現に貢献することが目標です。私自身、女性連絡協議会の一員としてこの

会に参加していますが最初は「自分に何ができるのだろうか」と戸惑う気持ちがありました。しかし、女性連の皆さんは、それぞれ新鮮な考えをもち、意見を言い合える方々で、その姿に刺激を受けることが多くありました。

福田議員の「ゆっくり自分の思いを言葉にのせ

けられ、生きがいとなるものです。交流会の準備時に、女性連メンバーの中から、前回好評だった新聞紙の「エコバッグを今年も作ろう」という声が出て、作ることにしました。初めて貰った方の喜ばれた様子を見たときには、作って良かったと思

いました。私たち女性連のメンバーは、北原白秋の詩「お祭り」を初めて群読しました。群読の中で、会場の皆さんと一緒に、「わっしょい、わっしょい」と軽快で元気のよい掛け声に会場が盛り上がり、会を楽しく終えることができました。

(田中昌子)

て、相手にわかってもらう」という話は心に響きました。女性交流会のステージは、どれもすばらしいものでした。二胡の音色は幻想的で、目を閉じると情景が浮かびました。「とと道」学習会では昔の暮らしを考

(小林成美)

さわやかトーク

さわやかトークが冬景色の中、スタートしました。大勢の方の参加で会場は満員になりました。質問に町長・副町長が丁寧に答えてくださり、納

得する回答でした。給食費の保護者負担減のために町が努力していること、矢掛町への移住者が増えている理由、これから町として取り組ん

とと道学習会

備中とと道トレイル推進協議会事務局長 金子晴彦氏

数年前「とと道」ガイドブックを見て、興味を持ち、この度「とと道」の学習会を開催できました。

までも 矢掛「ホテル公園」美屋「布東公会堂」を見ながら、金子さんの熱心な語りにより耳を傾けました。

守時タツミ作曲「高梁とと道」の曲をバックに写し出される映像「とと道」歩こう 愛をこめて

2016年から、走出の森山先生を中心に、「とと道探し」が始まったそうです。資料を基に、高齢者から昔語りを聞き取り、石の道標を探し当て、1本の道につながっていったのです。



「とと道」は、海から山へと続く実に60kmを超える道だったので。なぜ、とと道があるのか？疑問がわきました。そこには、吉備高原のたたら製鉄を中心とした産業が盛んになった吹屋に2千人もの人が働いていた。「新鮮な魚が食べたい」「もつかるなら運

でいきたいことなど、町長の思いを聞くことができました。



ぼつ」と40kgの鮮魚を6人が駅伝方式で届けた。比較的多くの魚仲仕たちが通ったコースが「とと道」となった。

疑問に丁寧にわかりやすく説明してくれました。運んだ人たちの想いを今に繋ぎ、次に繋ぎ、「熊野古道」「鯖街道」のように残していきたいと願

今回の学習会で「とと道」に関わってきた人たちの想いにも触れることができ、次世代に繋げようとしていく地元の人が動いていることに感動しました。

次回「とと道」を歩き、肌で感じられたらと思います。ありがとうございました。

「とと道」は、海から山へと続く実に60kmを超える道だったので。なぜ、とと道があるのか？疑問がわきました。そこには、吉備高原のたたら製鉄を中心とした産業が盛んになった吹屋に2千人もの人が働いていた。「新鮮な魚が食べたい」「もつかるなら運

私たちもできることを見つけ、取り組みを模索していきます。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。(池田輝美)

編集後記

里山田サテライトオフィスをどのように町が活用しているのかを詳しく知るきっかけになりました。今後他の企業もサテライトオフィスに入っていると、更に活性化していくでしょう。有意義な2時間でした。(平山美加)

心豊かな矢掛町に

1年間実施した事業に、運営委員が心一つにして取り組みました。特に「町長さんとさわやかトーク」で、物価高騰の折、子育ての苦悩を訴え、回答をお願いする機会をもてたことは、私にとっても貴重な体験でした。

矢掛町の景色が変わりつつありますが、新しさとともに歴史も大切にし、男女関係なく、心優しい魅力ある町になってほしいと思います。

私たちもできることを見つけ、取り組みを模索していきます。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。(池田輝美)